

町長

ひとりごと

(49)

斉藤 讓

新春を飾る消防出初式は、自治体消防にとつて、年に一度の晴れ舞台である。この出初式は、内外多数の来賓の前で、消防操法の演技や分列行進、車輛行進などを通して日頃の訓練の成果を披露し、消防力を誇示するとともに、消防職団員の士気を鼓舞し、団結を誓いあうのが目的である。それだけに、この評価は単に消防という側面にとどまらず、市町村の総合評価にもつながるので、消防団幹部はもとより、首長にとつても気の抜くことのできない緊張する一大行事である。

近隣のある町長は、「消防出初式を行わないうちは、一年の幕が明いた気がしない。」と語る。

▼消防出初式の開催日は、競合しないように市町村ごとに、予め定例日を決めている。東総地域では、一月六日の野栄町が先陣を切り、十三日の八日市場市をもって千秋楽とな

る。わが光町は、九日と決まっている。まさに八日間の出初興業である。開催日を競合させないのは、お互に首長や消防団幹部が来賓として行ったり来たりするためでもある。私が今年出席した市町は、五カ所であった。出初式は勿論野外で行われるので、離壇の来賓席は、ことの外に寒い。私は、元来あまり厚着はしないのであるが、この出初を境に厚着を纏うことになってしまった。制服、制帽の姿も、今年で五回目になるのであるが、いつになってもぎこちなさが残る。ふだん背広で通している者には、別の自分を見る思いがして面映いのである。さすがにふだん制服に身をつつんでいる警察署長や消防長、ベテラン消防団長の姿は堂に入っていてとても格好が良い。

▼出初式の会場は、学校などのグラウンドが多い。横芝町の坂田池の湖畔や光町の役場

出初めの風景

庁舎前の広場は異例のようである。いずれにしろ総て寒風の吹きすさぶ中でのことであるから、光町のように庁舎で北風をさえぎり、コンクリート舗装で足元の霜解けに気づかうことのない会場は、管内どこを探しても見当たらない。また、広さも適当であり、陣容も一段と見栄がする。まさに超一等地であると私は思っている。

それに、式典が終了すると、どこでも簡単な祝宴が開かれるのであるが、ほとんどの市町の場合は、宴会場に車で移動することになる。光町の場合、隣接の町民会館であり、この面でも利便性を有しているのである。

▼宴会はどこも質素であるが、市町によって特色がある。とに角、長い時間寒さの中にあつたのであるから、熱いものが何よりのご馳走である。光町は、女子職員の手による熱い豚汁とモツ煮が相場と決ま

四杯もお替りをする者もいる。自分の町では、当然のこととして町長の式辞を述べるのであるが、時折他の市町で近隣市町長の代表としてあいさつを指名されることがある。壇上に立つと、たとえ団員が何百人いようと、一人一人の姿勢がよく見える。特に、気の緩んだ者はすぐ目に飛びこんで来る。だから大袈裟に言えば、壇上に上った瞬間に、離壇ではあまり感じなかった当該消防団の不断の努力の程度が分かる。卒直に

市町間の格差はあまりないと思うが、団員数によって消防団の雰囲気は、大きく異なってくる。当日はどこでも、全団員が参加するということではないが、因みに近隣市町の消防団員の定数を調べてみると次のとおりである。

野栄町二〇〇人、飯岡町二四八人、海上町二三一人、横芝町四〇四人、銚子市六二三人、旭市三六〇人、八日市場市七二四人となっている。

すれば、光町はずば抜けて多いことになる。

▼光町の現在の消防防災体制は、一市三町（八日市場市、野栄町、横芝町、光町）で設立した常設消防組合（消防職員八十名）と九分団、三十一部（団員四三六人）からなる非常備消防団の二本柱からなっている。光町の一年間の消防経費は、概ね常設消防費一億円、非常備消防費三千万円併せて一億三千万円となっている。

これは対して光町は四三六人で、八日市場市、銚子市に次いで多く、人口規模を勘案

実は、いまこの消防団の団員確保が、年々厳しくなってきている。勤め先等の関係や規制されることを嫌う若者意識がこの大きな要因である。しかし、このような時代であるからこそ尚更に若い人達には消防に参加をして、相互の連けいを保って欲しいところである。災害は、現在の常設だけではとうてい対応できないのである。

▼平和や安全は、決して金で買うことができない。自分達の地域は、自分達の手で守る心構えが必要である。この意識の中から、本当の愛郷の精神が生まれてくるのだと私は信じている。